# 旧吉田茂邸再建に向けて

連載シリーズ⑬

## 大磯の賢人　吉田　茂

### 「外交的感覚のない国民は必ず凋落する」

3年間の待命期間中、吉田は2度海外に派遣されています。第一回目は昭和7年から8年にかけて実状視察のために中国及び満州へ、第二回目は広田弘毅外相の命により昭和9年から10年にかけて、外交巡閲使として在外公館巡視のため欧米各国を訪れました。

欧米巡視中、吉田の印象に残ったのが、ニューヨークで会ったエドワード・マンデル・ハウス大佐です。ハウス大佐は、第一次世界大戦前後、米大統領トマス・ウィッドロウ・ウィルソン大統領の顧問、いわば外交ブレーンとして活躍した人物です。ハウス大佐は、吉田に会うなり、「ディプロマチック・センスのない国民は、必ず凋落する」（『回想十年』第一巻）と語り出しました。「ディプロマチック・センス」とは、「外交的感覚」もしくは「国際的な勘」（同）のことです。

ハウス大佐は第一次世界大戦直前にドイツの皇帝を訪問し、「今後ドイツが無謀な戦争に入るようなことがなければ、世界第一流の強国として存在し、繁栄をつづけ得るであろうが、（中略）戦争を始めるようなことになれば、（中略）世界戦争にまで発展（中略）、これまで築き上げたドイツ興国の大業を覆すことにならぬとも限らない」（同）と開戦の非を説きましたが、その後ドイツは戦争に突入します。

当時の日本は、経済・軍備ともに英国を凌駕する勢いだった第一次世界大戦直前のドイツに匹敵する状況でした。しかし、敗戦後のドイツは、高額な賠償金の支払いや領地の割譲を命じられ、経済破綻の道を余儀なくされ、大佐の予言通りとなりました。

大佐はさらに「日本が徒（いたず）らに戦争に突入するようなことにでもなれば、近代日本の輝かしい興隆発展は、一朝にして覆されてしまうであろうし、もしまた反対に（中略）平和を維持し、冷静に国運の隆盛に専念するならば、日本の前途は洋々たるものであろう。殷鑑（いんかん）遠からず、ドイツ帝国にあり」（同）と、日本にドイツの轍（てつ）を踏むことのないよう忠言しました。ハウス大佐のこの言葉こそ、巡視旅行の最大の収穫だったのでしょう、吉田は感銘を受け、この言葉を生涯教訓としました。

▶左からハウス大佐、ウィルソン大統領（1915）
（写真／House,Edward M,Pps Manu scripts&Archives,Yale University）

ソ連からヨーロッパ、そしてアメリカへと渡った吉田一行が帰国したのは昭和10年2月。そして同年11月、吉田は外務省を退官、浪人となります。

**◎問い合わせ**
郷土資料館　学芸員
曽根田　☎（61）4700

## 旧吉田茂邸再建基金寄附者一覧⑬（13件：7月14日～8月10日）

8月10日現在、総額45,027,638円の寄附をいただきました。ご協力ありがとうございました。

（寄附受付順、敬称略）

| 氏名（名称） | 住所（所在地） | 寄附金額 |
|---|---|---|
| 大磯漁港朝市ボランティア | 大磯町 | ¥6,661 |
| 大磯歴史勉強会 | 大磯町 | ¥10,300 |
| 植田　光子 | 長崎県長崎市 | ¥10,000 |
| 匿名 | ※※※※※※ | ¥10,000 |
| 匿名 | 横浜市 | ¥15,000 |
| 古谷　義幸 | 秦野市 | ¥10,000 |
| 匿名 | 横浜市 | ¥15,000 |
| 佐藤　文子 | 小田原市 | ※※※※※ |

| 氏名（名称） | 住所（所在地） | 寄附金額 |
|---|---|---|
| 小澤　三雄 | 平塚市 | ¥10,000 |
| 千葉　清司 | 茅ヶ崎市 | ¥10,000 |
| 阿部　和男 | 平塚市 | ※※※※※ |
| 匿名 | 長崎県長崎市 | ※※※※※ |
| 増田　友行 | 大磯町 | ※※※※※ |
| 匿名 | 川崎市 | ¥10,000 |
| 南足柄市観光ボランティアガイドの会　楽・歩・里　金太郎 | 南足柄市 | ¥13,000 |

※　上記のほか、3名の方から25,000円のご寄附をいただいております。

**◎問い合わせ**　都市計画課　☎内線243